

## 国内研修活動報告書

### 島前合宿 2015

8月22日から27日の5泊6日、島根県隠岐郡島前地区に行ってきた。今回、大学の国内研修の制度を利用して島前合宿に参加した理由としては、コミュニティ福祉学科に入学した際にまちづくりや地域振興などに興味があったことが挙げられる。しかし入学してからフィールドに出たことがなく、この夏休みにどこかへ訪れてみようと考えていた。そして訪れる行先を島前地区に決めたのは、大学に入る前から島前高校を知っており、高校の魅力化プロジェクトなどについてさらに知りたいと考えていたからだ。

現地に着いて一番はじめに参加した企画は、隠岐島前高校ヒトツナギ部とのヒトツナギ交流会だった。ヒトツナギとは島内と島外の高校生が島をまわり地域の人と触れ合いながら島の魅力を知っていく活動である。今回の企画ではこの活動について島唯一の高校である島前高校の生徒とともに法政大学生が2015年のヒトツナギ部の活動を振り返るというものだった。自分が生活している中で高校生と関わる機会はほとんどなくはじまる前は上手く進行できるか不安を抱えていた。交流会では高校生と大学生があわせて6人程のグループをつくった。グループでの活動だったため高校生も話しやすかったのか、すべての人ではなかったものの予想以上に高校生が口を開いてくれていた。また、ヒトツナギの活動は順調に行われており、島の人全体が協力しているものだと考えていたが、話を聞いている限り順風満帆に行われているとはいえない部分もあることがわかった。島前高校生のヒトツナギに対する意識もそれぞれ違い、地域の人に対しても理解を得られていないところも見られた。話し合いの中で高校生から、今年のヒトツナギに参加した地域の方に不快な思いをさせてしまい来年は協力しないというような発言をされたと聞いた。第1回のヒトツナギを行った時から実施する内容も変わってきており、今年になって初めて行った活動もあったようだ。来年以降も活動するうえで改善点とますますの地域の方への配慮も必要になってくるだろう。そして今回、高校生とともに振り返りとフィードバックを行ったが、大学生である私たちはヒトツナギの活動自体には参加していない。実際に経験していないため知識も少なく、どこまで口をだしていいかわからなかった。来年もまた島前合宿が引き続き行われるのであれば、ヒトツナギ部の活動に一度でも参加したほうが深い話し合いが出来るのではないかと思う。ただ、気軽に訪れることができる距離ではないので、参加すると言っても簡単に行動に移すには難しいところもあると考える。またグループワークにおいては一緒の班の大学生2人に任せっきりになってしまった部分が多くもう少し自分の発言回数を増やせばよかったと思う。同じ班の高校生は3人のうち1人は積極的に発言していたが、他の2人があまり話せていなかったのも意見を言いやすい雰囲気を作ることや、発言を促すといったことが足りなかったと終わってから感じた。ただ、全体としてみると高校生と仲の良い関係性は築けたと思う。その中で、ヒトツナギ部の顧問の先生のフィードバックにあったように仲良くなるのが目的となってしまった部分もあったかも

しれない。より多くの意見を出してもらい振り返りをしていくことが目的であり、仲良くなることは過程である必要があったと思う。来年度、どのような形でヒトツナギの活動を続けていくのかわからないが、高校生にとってこの交流会が意味のあるものだったとなるようよりよい活動にしていってもらいたいと思う。

次におこなった企画は西ノ島中学校での出前授業だった。西ノ島中学校は島前地区の西ノ島町にある中学校で、3年生17人と交流した。この交流会ではヒトツナギ部のときのグループワークと違い、中学生1人に大学生1人がつくペアでの活動だった。事前学習のときに制作したライフストーリーチャートとジョハリの窓を使用した。自分自身にとってもこれまでの人生を振り返ることができ、意識したことのない新たな発見があった。ライフストーリーチャートを見てみると、18年間生きてきた中でマイナスだと感じる点がほとんどなく、経験してきた出来事をポジティブに捉える傾向であることが分かった。ジョハリの窓についても自分自身を見つめ直すことができた機会であり、他人からどう思われているのかを知ることが出来た。このことを踏まえて中学生との交流が行われた。ライフストーリーチャートの作成では、中学生が自分の人生をじっくり思い返しながらかき進めてくれた。15年という一般的にはまだまだ短いと思われる人生だが、一つ一つの出来事が本人に及ぼす影響を見ることが出来た。ジョハリの窓の作成では、なかなか自身の性格をあげることができず、悩んでいる姿も見られたが時間をかけて書き出してくれた。またペアになった生徒は自分からたくさん発言する性格ではなかったようで、会話が途切れてしまうことが何度かあった。この交流会ではファシリテーターの役割も担っていたため、先輩として場の雰囲気づくりや言葉を引き出すことなどまだまだやれることがあったと思う。中学生にとっても難しい授業内容だったかもしれないが、自身のことをしっかりと知る機会になったと思う。このことを日々の生活や進路選択に活かしていってもらいたい。

そして最後の企画となったのは学習センターでの大学生インターンとのワークショップだった。本来は4日目に企画されていたが、天候不良のため島と島を結ぶ内航船が欠航してしまい5日目に延期された。しかし延期したものの5日目も内航船が欠航してしまい、それぞれの島からスカイプを繋いでワークショップをおこなった。今回の合宿で企画された3つのなかで最も地域について考える機会だったと思う。それと同時に自身にとっては一番刺激的であり、かつ、自分の考えの未熟さに気づかされるものでもあった。島前地域に来て感じた事、学生が地域に入った際に何ができるか、など複数のテーマが設定されそれぞれについて自分で考えそしてグループになって意見を出し合った。大学に入り半年が経ち、授業の中で地域についての知識を多少なりとも得ていたものの、このワークショップのように深く地域について考えるのは初めてだったと思う。なかなか考えがまとまらなかったが、それでも自分なりにはしっかりと考えて意見を出すことができた。そしてなによりもグループ内で出る意見、インターン生から聞いた意見は新たな気付きを与えてもらえるものや考えを深められるものとなり、とても有意義な時間を過ごせたと感じる。もう少し自分の意見を主張し、グループの代表として発表するなどより一層の積極性を見せら

れば良かった。また、自分の考えはまだまだ浅いものだったなとも感じた。周りの人の意見を聞いていると、全く思いつかなかったことがたくさん出てきた。全員が課題に対して真剣に取り組み、熱く語っている姿は単純にすごいなと思った。話し合いで最終的に抱いた感想は、大学生は地域活動においてほとんど貢献できないのではないかと、ということだった。学生の身分では大それたことはできないかもしれないが、心のどこかではなんでもできると過信しすぎていたのかもしれない。それでも学生の時期に地域に入ることは何かしらの意味があると思うので、今後も引き続き考えていき明確な意見を持てるようにしていきたい。また多くの人が言っていたが、インターン生とはスカイプでのやりとりになってしまったのは残念だった。天気の関係ということで仕方のない面もあったが、直接話し合いをすることでさらにいいワークショップになったのではないかなと思う。

さらに、今回の合宿ではこれらの3つの企画以外の時間もとても充実したものとなった。島に到着した日に行われたキンニャモニャ祭りは参加する前と後でまったく違う気持ちになった。キンニャモニャ祭りとは両手にしゃもじを持ち約1時間にもわたって踊り続ける祭りだ。はじまる前は1時間という時間の長さをあまり好意的に捉えていなかった。しかしはじまってみると島特有の踊りを地元の方々と踊ることができ、一体感のようなものを感じることが出来た。その後の花火大会も見ることができ、この夏の思い出を語る上で外せないものとなった。そして、3日目には島観光をした。滞在していた西ノ島町から船に乗り、海士町に渡って観光した。明屋海岸では海の絶景を楽しむことができた。海なし県に住む私にとっては海を見るたびに興奮してしまった。次に訪れた隠岐神社では、京都造形大学の生徒とも触れ合うことが出来た。京都造形大生は海士町のものを使ったカフェを開いていた。芸術の分野の学生さんたちだが、地域に入るというひとつの形を見ることが出来た。

5泊6日という短い期間の滞在となった今回の合宿だが、島にいる間中ずっと思っていたことがある。それは、この島に来てよかった、ということだ。そして自分の地元に戻ってきてからも、行ってよかった、また行きたいと思っている。島前では人の温かさ、自然の豊かさに触れることが出来た。島の人々は会うと挨拶をしてくださり、さまざまなおもてなしをしてくださった。私たちの活動に協力してくださった島前高校の方、西ノ島中学校の方、隠岐国学習センターの方とインターン生、そして先輩とその家族をはじめとする島の方には感謝の気持ちでいっぱいだ。また都会では味わうことのできない自然の恵みがたくさんあった。約1週間の生活で多くの島の魅力を味わうことができた。そして一緒に合宿にいった人の中ではじめて話すひとたくさんいた。だが終わってみるとこのグループでの活動に一区切りついてしまうことが惜しいくらいに良い関係を築くことが出来た。学習面においてもたくさんの刺激を得ることができ、多くのことを学んだ。正直、難しいことばかりで、もっともっと考えていかなければならないと思った。楽しかっただけで終わりにせず、これからの大学での授業やフィールドに出る際に役立てていかなければいけないと思う。はじめてのフィールドワークでわからないことも多々あったが、この合宿で

学んだ事は次以降に活かしていきたい。そしてできれば島前地域との繋がりもこれで終わりではなく、定期的な関わり方をしていきたい。最後に、このような機会があったことはとても恵まれたことであり、多くの人へ感謝の気持ちを持つことができた。参加させていただきありがとうございました。